

＜エコ熱プラス仕様詳細＞ 潜熱量・蓄熱量は『JSTM O 6101』での測定値

・製品の蓄熱量（全面パネル）

15℃～35℃ 606kJ/m²(昇温過程) 607kJ/m²(降温過程)
20℃～35℃ 549kJ/m²(昇温過程) 547kJ/m²(降温過程)

・製品の潜熱量（全面パネル）

15℃～35℃ 364kJ/m²(昇温過程) 358kJ/m²(降温過程)
20℃～35℃ 365kJ/m²(昇温過程) 358kJ/m²(降温過程)

・製品の厚さ

12mm

本製品は重ね合わせて施工することはできません

＜支援事業に申請するための設計要件＞

支援事業に申請するためには以下の点に留意して設計してください。

『開口部からの侵入日射熱利用』の場合

対象室は真南±30°の方位に面していること。
対象室に集熱開口部の面積が10%以上であること。
対象室の床面積の**35%**以上にエコ熱プラスフローリングを施工すること。
(日射の当たる箇所に施工することが望ましい)

100m²の部屋に施工すると考えて
100×192 (kJ) =19200 (kJ) 必要
19200÷606=31.7÷**35%**

『温水式床暖房放熱器利用』の場合

放熱器に接続する暖房設備が太陽熱集熱器を利用した温水式床暖房であること。
対象室の床面積の**40%**以上に放熱器とエコ熱プラスフローリングを施工すること。
エコ熱プラスフローリングを放熱器の上に施工すること。

100m²の部屋に施工すると考えて
100×192 (kJ) =19200 (kJ) 必要
19200÷547=36.0÷**40%**

『屋根空気集熱式ソーラーシステム利用』の場合

対象室が屋根空気集熱式ソーラーシステム(全館空調)であること。
延床面積の**15%**以上のエコ熱プラスフローリングを施工すること。

延床面積を100m²と考えると
100×80 (kJ) =8000 (kJ) 必要
8000÷606=13.2÷**15%**

＜施工上の注意＞

・施工部位

本製品は合板下地または床暖房放熱器の上に施工してください。

※根太に直接施工することはできません。

・施工上の注意点

本製品の内部には蓄熱材が入っています。

蓄熱フロアをカットすると内部の蓄熱材が飛び散りますので、絶対にカットしないでください。

施工時の切り間違えなどで、蓄熱フロアを廃棄する際は、産業廃棄物として適切に処理してください。

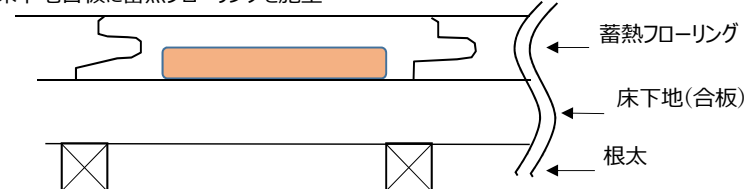
また、蓄熱材が飛散した場合は、ウエス等できれいに拭き取ってください。

蓄熱材が入っている箇所に釘打ちを行うと蓄熱機能が失われますので、指定箇所以外に釘を打たないでください。

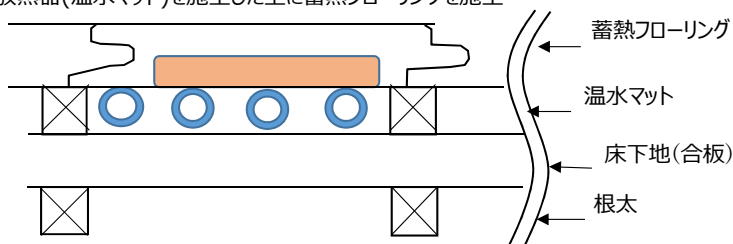
専用接着剤とフロア用スクリューネイル(30～40mm)またはフロア用ステーブル(30～40mm)の併用で施工してください。

・施工納まり図

床下地合板に蓄熱フローリングを施工

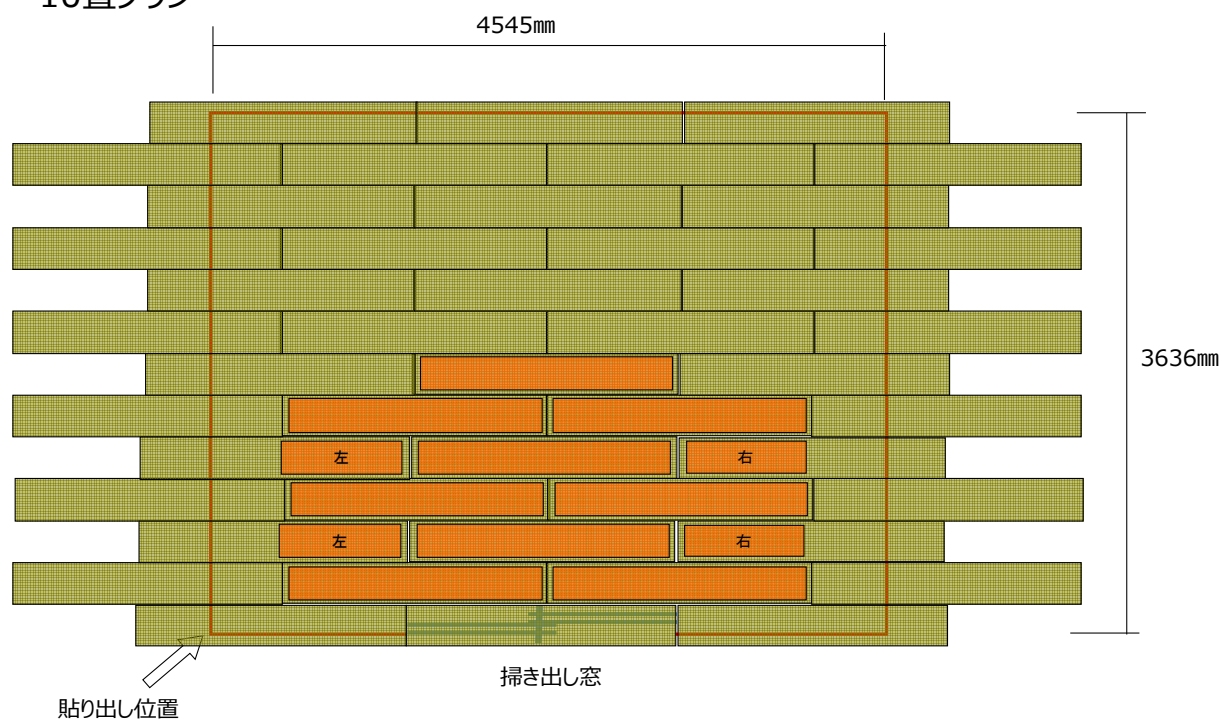


放熱器(温水マット)を施工した上に蓄熱フローリングを施工



<プラン例>

10畳プラン



エコ熱プラスフローリング

全面パネル (9枚)	HHC-Z※/3	¥12,000	3ヶ-入	¥360,000
	HHC-Z※/1	¥40,000		
右半面パネル (2枚)	HHC-R※/3	¥90,000		
	HHC-R※/1	¥30,000	2ヶ-入	¥60,000
左半面パネル (4枚)	HHC-L※/3	¥90,000		
	HHC-L※/1	¥30,000	2ヶ-入	¥60,000
周辺パネル (15枚)	RGNR-※	¥27,000	3ヶ-入	¥81,000
合計				¥561,000

※フローリングは切り回してお使いください

床面積	16.53 m ²
①必要蓄熱量	3173.76 KJ
蓄熱床面積	6.06 m ²
蓄熱量(15~35℃)	3672.36 KJ

開口部からの侵入日射熱利用の場合

次世代蓄熱
フローリングシステム

エコ熱プラスフローリング施工説明書

このたびは弊社製品をご採用いただきありがとうございます。

製品の特性を十分に生かし、安全に美しく仕上げるために、**施工の前に必ず本説明書をご一読ください。**開梱時に、**万一、梱包や製品に傷等がある場合は、施工前にご購入先まで連絡をお願いいたします。**本説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で事故・部材の損傷等の問題が生じた場合は、保証をいたしかねますのでご注意ください。

安全上のご注意 表示方法

■表示内容を無視して誤った工事・使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明します。

**警告** この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度」をいう。**注意** この表示の欄は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」をいう。

■お守りいただく内容の種類を、次の図記号で区分し、説明します。

**禁止** この図記号は、製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止するものです。**注意** この図記号は、製品の取り扱いにおいて、注意を喚起するためのものです。**強制** この図記号は、製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制するものです。 **警告**

1. 施工完了後、引き渡し前に必ず工事管理者の安全点検を受け、不良箇所については補修してください。
2. 専用接着剤には健康に有害な物質を含有していますので、作業場所の換気を充分に行ってください。使用前に接着剤容器に記載されている、安全に関する注意、使用方法、使用上の注意を読み正しくご使用ください。
3. 施工時の切り間違えなどで、蓄熱フロアを廃棄する際は、産業廃棄物として適切に処理してください。また、蓄熱材が飛散した場合は、ウエス等できれいに拭取ってください。

注意

1. 本製品は一般住宅（屋内）の上履き用です。土足用としては使用しないでください。
2. フックスがけは必要ありません。
3. エコ熱プラス温水マット以外のマットを使用しないでください。十分な性能が得られない恐れがあります。

※誤った施工や取り扱いにおける苦情、返品、お取り替えには応じかねます。

〈お願い〉4ページに「フローリングの美装作業手順・注意事項」を掲載しています。施工完了後、美装業者様にお渡しください。

1. 施工の前に

1 床材の取り扱い

1. 床材は絶対にぬらさないでください。また直射日光は避けてください。開梱後速やかに施工してください。
2. 床材は高温多湿でない風通しの良い場所で水平に保管してください。
(立てかけたり、地面に直接置かないでください。)
3. 蓄熱フロアをカットすると内部の蓄熱材が飛び散りますので、絶対にカットしないでください。
(カットしてしまった場合は、ウエス等で拭取ってください。)

注意

1. 木質材料ですので、ササクレによるケガには充分ご注意ください。
2. 施工、加工時の防じん対策として、マスク、手袋、保護メガネなどを着用してください。
3. 高温下の環境に長時間おかれた場合、蓄熱材が浸み出す恐れがあります。

3 仮並べ

- ・床材の表面に、天然材を使用している場合は1枚ごとに色柄が異なります。施工前に仮並べを行い、色柄のバランスを考慮して割り付けてください。(化粧単板ごとにも色柄の濃淡があり、板目、柃目の違いや塗料の吸い込み量によっても多少の色違いはあります。)
- ・極端に色柄が異なっている場合は、販売店様、最寄りの弊社営業部門まで速やかにご連絡ください。
- ・オレフィンシート製品の場合は同じ柄が隣り合わないよう施工してください。

2 道具の準備

**専用接着剤とフロア用スクリーネイル
(またはフロア用ステーブル) の併用**

- ・床暖房用として使用しない場合
ES-NU
(永大ネダ用ボンド・無溶剤ウレタン系・カートリッジ仕様)
- ・床暖房用として使用する場合
ES-HHB
(無溶剤ウレタン系・カートリッジ仕様)
または
ES-HHA
(無溶剤ウレタン系・アルミバック仕様)

+

長さ 35~40mm* フロア用スクリーネイル

または 長さ 35~40mm* フロア用ステーブル

その他、施工に必要な道具を用意します。

*石膏ボードを下地に使用する場合は
フロア用スクリーネイル、ステーブルを石膏ボードに固定するだけでは保持力はありませんので、石膏ボードの下地まで固定できる長さのフロア用スクリーネイル、ステーブル(48mm以上)を使用してください。

**専用接着剤の
標準塗布面積**

- ES-NU
ビート塗布7mmφで塗布の場合
約50m²・約4坪/1本(850ml)
- ES-HHB
ビート塗布7mmφで塗布の場合
約50m²・約2坪/1本(850ml)
- ES-HHA
ビート塗布5mmφで塗布の場合
約50m²・約2坪/1本(769ml)
- ・ES-HHB、ES-HHAは床暖房用として使用しない場合でもご使用いただけます。

使用しない!

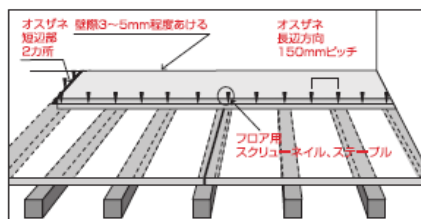
- ・専用接着剤以外の接着剤
- ・通常釘
- ・フィニッシュネイル

・エアタッカーのコンプレッサーの圧力は、釘頭が残らないようによく調整してください。

2. 施工手順

4 固定

- ・フロア用スクリーネイル、ステーブルを長辺方向オスザネに150mmピッチ、短辺部オスザネに2カ所打ってください。



- ・床材同士は軽く接する程度にたたき込んでください。入りにくい場合は当て木等で軽く接する程度までたたき込んでください。
- ・床材の切断部分を、直接強くたたくと床材表面が膨れる恐れがありますので、当て木をしてください。

エコ熱プラス温水マットを使用する場合

- ・小根太上にあるオスザネ部にフロア用スクリーネイル、ステーブルを打ってください。
- ・短辺部オスザネにもフロア用スクリーネイル、ステーブルを2本垂直に打ってください。

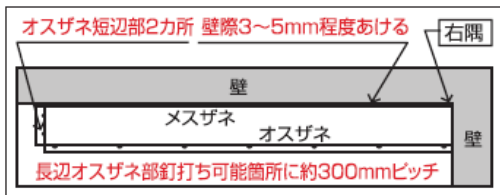


警告



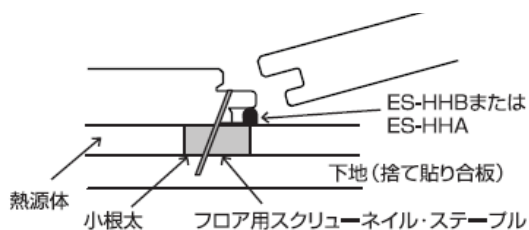
禁止

小根太以外の箇所には釘を打たないでください。
誤って釘を打つと熱源体が破損し、火災になる恐れがあります。
あるいは水漏れの恐れがあります。



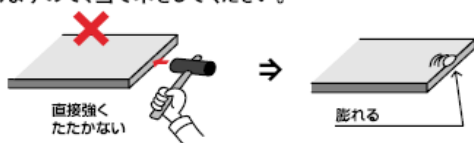
そして、短辺サネ部に専用接着剤を塗布します。

短辺のオスザネ下部分にも専用接着剤ES-HHBまたはES-HHAを床材の幅だけ筋状に塗布してください。



オレフィンシート製品の場合

床材の切断部分を、直接強くたたくと床材表面が膨れる恐れがありますので、当て木をしてください。



フロア用スクリーネイル、ステーブルを打つ前に

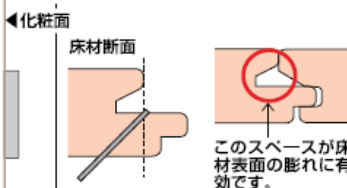
- ① エアコンプレッサーの圧力6kgf/cm²もしくは0.6MPa程度に設定してください。
※施工される下地の層構成、下地の材質によりエア圧力は上記の限りではありません。
- ② 釘打ち機のアジャスターを調整し、フロア用スクリーネイル、ステーブルが沈み過ぎないように調整してください。
※スクリーネイル、ステーブルを沈め過ぎると、床材表面が膨れる場合があります。
- ③ 施工される前に試し打ち等をして調整してください。
※一般的にエア圧が高い場合やアジャスター調整がなされていない場合はオスザネが破損したり、床材表面に膨れが発生する場合がありますので、試し打ちをおすすめします。

フロア用スクリーネイル、ステーブルの打ち込みについて

- ① 打ち込み角度は45°~60°としてください。
ただし、上下に開くタイプのステーブルの場合は60°を推奨します。
- ② 床材を真上から見たときにフロア用スクリーネイル、ステーブル肩幅全容が見えるように打ち納めてください。
釘打ち機を立てるほど、フロア用スクリーネイル、ステーブルは外側に打ち込めます。



- ・施工されている床材のサネ部を真上から見てステーブルの打ち込まれた状態(釘頭の位置と沈み具合)を確認してください。



- ・化粧面より2mm以内に打ち込む。

- ・床材同士は軽く接する程度にたたき込んでください。入りにくい場合は当て木等で軽く接する程度までたたき込んでください。



- ※床材表面の膨れやサネ破損の原因となりますので、下記のような打ち方はしないでください。

- ① 沈め過ぎ
⇒ 膨れる場合があります
- ② 釘頭が出ている
⇒ 膨れる場合があります
※出過ぎている場合、メスザネが入る程度に釘頭をポンチ等で沈めてください
- ③ 指定位置、指定角度以外で打つ
・ ねかせ過ぎ
⇒ 膨れる場合があります
- ・ 立て過ぎ
⇒ オスザネが破損する場合があります
- ・ ステーブル肩幅全容が見えていない
⇒ 膨れる場合があります

図、文言はステーブルでの表現です。

3. 養生

施工後は水ぬれや直射日光を避け、傷がつかないようにすき間なく充分に養生してください。

・換気は充分にしてください。高温多湿の状態で閉め切っていると、床材の突き上げの原因になります。

①養生前にきれいに清掃してください。

・砂やゴミが残っていると、床材表面に傷がついたり、目地に入り取れにくくなりますので注意してください。

②養生シート、養生テープは必ず弊社専用製品を使用して、床材表面を保護してください。

(別売り:「エイダイ養生シート」「永大床養生テープ」)

・指定品以外のものを使用すると、床材表面を傷めたり変色、ワックスのはじきが生じたり、粘着剤が残ることがあります。

※養生はすき間なく行ってください。

天然木を使用した製品は光により色が濃くなる「変色」や色があせる「退色」という性質があります。光が当たる箇所と光が当たらない箇所の色合いに差が生じることがあります。特にクリア仕上げの製品は樹種の特徴により変色、退色しやすいためご注意ください。また、直射日光に長時間あたるとヒビ割れの恐れもあります。

・養生シートの上から、ペンキや雨水等がかかるとシミになることがありますので注意してください。

・脚立や重量物を使用する際には、合板等の硬い材料で床材を保護してください。

③すべての工事が終わり、脚立や道具等を持ち込まなくなってから養生シートをはがしてください。

・養生テープをはがすときは、床材に傷をつけないように、ゆっくりと注意してはがしてください。

〈工事店様へのお願い〉

・この注意事項を必ず美装業者様にお渡しください。

美装業者様へ

・美装作業前にご一読ください。

美装作業手順および注意事項

ワックスを塗布する前に、床材表面のクリーニングを必ず行ってください。

【クリーニングの手順】

- ①ホウキ、掃除機などで床材表面のゴミなどを取り除きます。
- ②床面以外の箇所(幅木、沓摺り、壁など)を養生します。
- ③洗剤(中性)を希釈した洗剤液を作ります。
- ④洗剤液を含ませたモップを固くしぼり、床材表面を洗剤拭きします。
- ⑤床材表面の洗剤が乾かないうちに、きれいな水を含ませたモップを固くしぼり、2回以上水拭きを行います。
- ⑥床材表面を充分乾燥させます。

【クリーニング時の注意事項】

- ・多量の水を使った水洗いは厳禁です。モップは必ず固くしぼってください。
- ・床材表面に直接、水や洗剤を撒き散らさないでください。
- ・ワックス剥離剤は、床材表面の保護加工を侵すことがありますので使用しないでください。
- ・洗剤液用と水拭き用のモップ・雑巾は別のものを使用してください。
- ・洗剤分は完全に拭きとってください。
- ・床材表面に洗剤が残ると、ワックスのハジキや白化、密着不良の原因になります。
- ・クリーニング後に、パラフィン系の化学雑巾またはフローリングワイパーを使用することは避けてください。

【樹脂ワックス塗布方法】

- ①樹脂ワックスを入れた容器の下にはビニールシートなどを敷いて、床材表面を保護してください。
- ②ワックス塗布専用モップに樹脂ワックスを含ませて、しずくが落ちない程度にしぼってください。
- ③床材表面に薄くムラなく(均一に)塗布してください。
- ④床材の目地に樹脂ワックスが溜まらないように塗布してください。
- ⑤樹脂ワックスを塗布した床材表面を充分に乾燥させてください。

【樹脂ワックス作業時の注意事項】

- ・必ず弊社指定または推奨のフローリング用樹脂ワックスを使用してください。
- ・弊社指定品:「ユカメイク」
- ・推奨品:(株)リンレイ「ハイテックフローリングコート」
- ・以下の場合には樹脂ワックス塗布は避けてください。
- ・室温、床材表面、樹脂ワックスの液温が5℃以下の場合。
- ・直射日光により床材表面が高温になっている場合。
- ・雨天などで湿度が高い場合。
- ・床材表面がぬれている場合。
- ・樹脂ワックスを床材表面に直接撒き散らしたり、モップから垂らすことは避けてください。
- ・床材が膨れたり、シミになる原因となります。

【作業終了後】

- ・工事完了後は雨水等にぬれないよう窓の閉め忘れなどにご注意ください。万一、水にぬれた場合はすぐに拭き取ってください。
- ・ぬれたまま放置すると、寸法変化、シミ、膨れなどのトラブルの原因になります。

クリスタル塗装製品・ナチュラルハード塗装製品・フラット塗装製品・オレフィンシート製品はワックスがけが必要ありません。

- ・ワックスがけは艶を出し、床材表面に傷がつくのを防ぐためのものです。クリスタル塗装製品・フラット塗装製品はもともと艶があり、傷がつきにくいので、艶出し、表面保護のためのワックスがけは必要ありません。
- ・ナチュラルハード塗装製品は、すり傷に強いので、表面保護のためのワックスがけは必要ありません。また、艶が低い仕上がりですので、ワックスがけを行うと、艶がワックス自体の艶になり本来の質感が失われます。
- ・オレフィンシート製品は汚れや傷がつきにくいのでワックスがけは必要ありません。
- ・お客様の都合によりワックスがけされる場合は、必ず弊社フローリング用ワックス「ユカメイク」もしくは(株)リンレイ製「ハイテックフローリングコート」をご使用ください。
- ・ワックスは薄く均一に塗布してください。表面が平滑なので塗りムラにご注意ください。
- (市販のワックスの中には一部弊社フローリングに適さないものもあります。)

永大産業株式会社
http://www.eidai.com

建材事業部商品部 商品一課

お客様相談センター

☎ 0120-685-110

受付時間 平日・土曜日 9:00~18:00

(休業日) 日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始

E-mail : cs@eidai-sangyo.co.jp

S797Ke1704dnEP第1版